科目名 Subject	シャンプーイング Shampooing Practice		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30
実践的教育	○				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	ヘアスタイリストとしてのサロンワークの基礎（シャンプー）をより深く身に付ける。 プロとして通用するレベルのシャンプー技術を学ぶ。 様々な年齢の頭皮や毛髪の状態を知り、より深い技術を身に付けて一人一人に合わせたシャンプーができるよう対応力をつける。授業を通じて美齢学の理解を深める。				
授業の目標	髪や頭皮の理論、シャンプー成分などのケミカルについて学び、サロンワークの基礎技術であるシャンプーができるようになる。 プロとして通用するシャンプー技術を習得できるようになる。 応用技術を学び、老若男女問わず対応できる応用力をつけ、美齢学に取り組む知識を得ることができるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	美容の最新技術・知識を把握する。 本授業は、実技が主となる為、技術の修得のため日々の復習が非常に重要なものとなる。毎授業ごとに一時間程度の反復練習を行い、次回に臨む事。				
教科書・教材	教科書	美容技術理論Ⅰ・教員作成資料			
	教材	シャンプークロス・タオル・ブラシ・ドライヤー			
	使用設備・備品	美容実習室・シャンプー室使用			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度などの平常点・技術試験・提出課題での評価 「平常点60%試験30%課題10%」				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	毛髪、頭皮理論について学ぶ。	より深い毛髪や頭皮の理論や知識を習得できるようになる。	授業内容を図なども加えてノートに分かりやすくまとめプレゼンできるようにする。 （想定時間：概ね一時間）
第２回	ケミカル理論について学ぶ。	より深いケミカルの知識を習得できるようになる。	授業内容を図なども加えてノートに分かりやすくまとめプレゼンできるようにする。 （想定時間：概ね一時間）
第３回	シャンプー成分などについて学ぶ。	より深いシャンプー成分などの知識を習得できるようになる。	授業内容を図なども加えてノートに分かりやすくまとめプレゼンできるようにする。 （想定時間：概ね一時間）
第４回	サイドシャンプー　　プレーンリンスについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なプレーンリンス技術を習得できるようになる。	
第５回	サイドシャンプー １シャンプーについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な１シャンプー技術を習得できるようになる。	
第６回	サイドシャンプー ２シャンプーについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な２シャンプー技術を習得できるようになる。	
第７回	サイドシャンプー マッサージについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術を習得できるようになる。	
第８回	サイドシャンプー ヘッドスパについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なヘッドスパ技術を習得できるようになる。	
第９回	サイドシャンプー 技術チェックテスト	プロとして通用するシャンプーができるか技術の修得レベルを測ることができる。	
第１０回	バックシャンプー プレーンリンスについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なプレーンリンス技術を習得できるようになる。	
第１１回	バックシャンプー プレーンリンスについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な１シャンプー技術を習得できるようになる。	
第１２回	バックシャンプー ２シャンプーについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な２シャンプー技術を習得できるようになる。	
第１３回	バックシャンプー マッサージについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術を習得できるようになる。	
第１４回	バックシャンプー ヘッドスパについて学ぶ。展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なヘッドスパ技術を習得できるようになる。	
第１５回	サイドシャンプー 技術チェックテスト	プロとして通用するシャンプーができるか技術の修得レベルを測ることができる。	